

# 令和2年度行政評価結果

河内長野市



## 1. はじめに

令和2年度行政評価結果は、第5次総合計画前期基本計画に掲載する38施策の令和2年度末現在での達成状況と、令和2年度に施策目標を達成するために実施した主要な事業の概要をまとめたものです。

各施策及び施策を構成する事業を評価し、目標や課題、今後の方向性等を施策毎にとりまとめて公表することで、市議会や市民のみなさまに第5次総合計画の進捗状況や総合計画の推進に向けた市の取り組みについての理解を深めていただくこと、透明な行政運営を実現することを目的としています。

なお、第5次総合計画前期基本計画が令和2年度に計画期間の最終年度を迎えたことから、前期基本計画策定時点からの社会潮流の変化などを踏まえて、令和3年3月に後期基本計画を策定しました。後期基本計画では、一部の住みよさ指標について、指標の見直しや令和7年度における目標値の見直しを行っており、今回、令和2年度行政評価結果においても、後期基本計画における指標の目標値を掲載しています。

## 2. 行政評価とは

施策や事業に目標を設定し、その達成度の向上をめざして、限られた資源（ヒト・モノ・カネ）や情報の有効活用を図る仕組みです。評価を通じて事業の見直しや改善を図るとともに、部局間の情報共有を進め、市民に対しても説明責任を果たすことをめざします。

令和2年度決算では、以下の3つの評価を実施し、今後の行政経営や令和4年度予算編成に向けた施策の選択と集中、事務改善の基礎資料とします。

- 第5次総合計画の38施策に対する「**施策評価**」
- 第5次総合計画・実施計画に掲載する事業に対する「**事業評価**」  
(※河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業を含む)
- 市内部で実施した施策評価を外部の視点で検証する「**外部評価**」(後日実施)

### 3. 施策評価シートの見方

第5次総合計画前期基本計画の施策番号及び施策名称を記載しています。

基本目標1 「安心・心・支えあい」の暮らしやすいまち 総計掲載頁 62

分野別政策1 「安心」を築く危機管理・安全対策の推進

**施策 No. 1 危機管理・防災対策の推進** 施策を実施することで10年後（令和7年度）にめざす姿を記載しています。

**10年後のめざす姿** あらゆる危機事象に対して、市民・関係団体・事業所・行政などが連携し、迅速かつ的確に対応できる危機管理体制が確立されるとともに、市民の危機管理などに対する意識啓発が進むことで、市民の安全・安心を確保し、被害を最小に抑えることができる防災体制が整っています。また、風水害被害の未然防止に向け、土砂災害対策や治山・治水対策が図られています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の										面	
			H28	H29	H30	R1								
1 「防災」に関する市民満足度	19.2	%	目標値	21.0	21.0	21.0	21.0	30.0	32.0	34.0	36.0	38.0	40.0	↗
			実績値	16.1	17.4	17.0	18.1	20.2						
2 自主防災組織化率	61.3	%	目標値	64.6	68.0	70.0	70.0	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0	→
			実績値	66.6	67.5	67.6	68.9	68.6						
3 地域防災活動参加者数	5,725		目標値	5,920	6,100	6,100	5,100	6,700	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	↘
			実績値	5,870	1,942	3,848	3,885	0						

各指標の状況（目標に到達できているか等）を記載しています。

施策の目標を指標化しています。「当初」欄には、総合計画作成時の数値を記載しています。

**総** 住みよさ指標の状況 が高くなってきており、日頃からの備えやもしもの際の行動などの正しい知識を周知する

**D** 地域防災活動参加者については、令和元年度より、避難所運営訓練などに切り替えて安全で住み良い地域づくりを目指す。なお、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域防災活動は実施できなかった。

**前年度評価** 課題・方向性 する中で、熊本地震や大阪北部地震などで現在、受援計画・業務継続計画の発生に備えた体制を整備していく。同時に、家庭や学校、地域などにおいて、め、地域の方々による防災啓発の取り組みへの支援を継続して行っていく必

令和2年度末現在での施策の達成度を、住みよさ指標の状況から、A～Eの5段階で評価しています。

住みよさ指標の増減に関する、担当部局での分析結果、考え方を記載しています。

また、避難所におけるマンホールトイレの整備を計画的に行うとともに、大阪府と協力しながら、土砂災害対策やため池の適正な管理及び保全などに取り組んでいく。

前年度評価における施策の課題や方向性を記載しています。

**令和2年度の成果** 平成28年度から平成30年度にかけて養成した防災リーダーに対し、令和元年度以降、地域で防災啓発の役割を担う防災リーダーのフォローアップをおこなった。また、各小中学校等における避難所運営訓練などを行うことにより、より防災力の向上を図るための事業を実施している。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、まちづくり出前講座や地域の防災訓練は実施できなかった。

施策に関する令和2年度の取組みを記載しています。

**今後の方向性** 熊本地震や大阪北部地震などの災害が発生し、これらの教訓を活かした新しい地域防災計画が必要となっていたことから、令和2年度において、受援計画・業務継続計画を含む地域防災計画の見直しを行った。今後も引き続き災害の発生に備えた体制を整備していく。同時に、家庭や学校、地域などにおいて、日頃からの災害への備えなどを考えてもらうために、地域の方々による防災啓発の取り組みへの支援を継続して行っていく必要がある。また、避難所におけるマンホールトイレの整備を計画的に行うとともに、大阪府と協力しながら、土砂災害対策やため池の適正な管理及び保全などに取り組んでいく。

「めざす姿」実現に向けた今後の課題や施策の方向性を記載しています。

■ 関連指標の推移

指標	当初	単位	実績値	年度													評価	戦略
				100.0	%	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0							
1 災害ハザードマップ更新進捗率	100.0	%	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0									○	✓
2 地域安全マップ作成団体数	-	団体	設定値	3	5	7	7	8	9	10	11	12	13				○	✓
			実績値	3	5	5	7	8										
3 衛星携帯電話配備数(計画台数6台中)	4	台	設定値	6	6	6	6											
			実績値	6	6	6	6											
4 災害時備蓄物資の備蓄率	78.0	%	設定値	88.0	94.0	96.0	98.0	100.0									○	✓
			実績値	92.0	94.0	96.0	98.0	100.0										
5 河川改修工事件数	6	件	設定値	3	3	2	1	2	2	2	2	2	2				→	
			実績値	1	2	3	1	0										

住みよさ指標を補完する指標や、住みよさ指標の達成に向けた中間目標となる指標、各構成事業の成果を示す指標等を参考指標として設定し、設定値に対する各指標の状況を記載しています。

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の参考指標であることを示しています。

■ 施策の展開(主な取り組み)

No	事業名	事業の目的	実施内容	【重点】	【戦略】	【所管課】
1	河内長野市地域防災計画修正事業	平成26年4月に全面的に修正(平成27年一部修正)したが、最新の知見の反映や大阪府地域防災計画との整合等を図り見直す。	令和元年度及び令和2年度の2か年にわたり実施。令和元年度においては、各課ヒアリングを行い業務継続計画(BCP)及び受援計画を作成した。令和2年度においては、防災会議を開催し、パブリックコメントを経て、令和3年3月地域防災計画を改定した。	【重点】	【戦略】	危機管理課
2	地域版ハザードマップ作成	「何・誰」をどのような状態にするために実施している事業か、目的を記載しています。	川上小学校区において、地域主体によるワークショップを行い、地図上に危険な場所や安全な場所を示した地図を作成し、小学校区内の全世帯分を配布した。	【重点】	【戦略】	危機管理課
3	ため池ハザードマップの整備	ハザードマップを作成し、農業用ため池の決壊に関する情報の伝達方法、避難場所及び避難経路等について周知することで災害時の対応を支援する。	農業用ため池のハザードマップを作成し、ため池の所有者、管理者及びため池決壊時の浸水想定区域図を作成した。	【重点】	【戦略】	危機管理課
4	地域防災リーダー養成事業	地域防災リーダー養成講座を実施し、地域防災の中核となる人材を育成し、修了後には各地域の防災意識の啓発・防災活動を活性化することで、地域防災力の向上を図る。	ローアンプ講座を書面で実施した。	【重点】	【戦略】	危機管理課
5	避難所施設の強化・充実事業(マンホールトイレの整備)	地域防災計画において示されている避難所において、災害発生時の避難収容可能人数に併せたトイレ設置が必要であることから、マンホールトイレの整備を計画的に行う。	令和2年度より5か年計画で、11ヶ所の小中学校等に計画的に整備していくため、令和元年度に計画策定を行った。令和2年度は、楠小学校に車いす用トイレ1基、一般用トイレ4基を整備した。	【重点】	【戦略】	危機管理課
6	災害時備蓄物資の充実	大規模災害に備え、地域防災計画に基づく災害時備蓄物資整備計画により、公的備蓄の必要量を確保するとともに、適時更新することで、日頃から非常時の備えを充実させる。	アルファ化米3,000食、7年保存クッキー2,000個、粉ミルク360食、生理用品4,320枚、おむつ974枚、毛布洗浄130枚、アルミシート1,100枚等を購入・備蓄した。	【重点】	【戦略】	危機管理課

施策目標を達成するために令和2年度に実施した主要な事業について掲載しています。

令和2年度に実施した内容、成果等について記載しています。

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業であることを示しています。

令和2年度に重点的に資源を投入し実施すると位置づけた事業(実施計画重点プロジェクト事業)であることを示しています。

## ○施策評価の基準

### 【各指標の評価】

それぞれの指標が令和2年度の目標値（設定値）に到達しているか等について、以下のとおり4段階で評価しています。

区分	評価基準
○	目標値（設定値）に到達している場合
↗	目標値（設定値）には到達していないが、上昇傾向である場合
→	目標値（設定値）に到達しておらず、横ばいである場合
↘	目標値（設定値）に到達しておらず、下降傾向である場合

### 【総合評価】

施策の住みよさ指標の状況を総合し、令和2年度末現在での施策の達成度を、以下のとおり5段階で評価しています。

区分	評価基準
A	指標の目標値を全て達成し、達成度は予定以上の水準である
B	指標の目標値を概ね達成し、めざす姿実現に向け順調に進んでいる
C	一部指標は目標値を達成し、めざす姿実現に向け成果が表れつつある
D	目標水準にほぼ到達している指標もあるが、全体としてやや遅れ気味である
E	指標は全て目標値に到達しておらず、成果がみられない

## 4. 令和2年度評価の状況

総合評価は、評価者の主観によらず、客観的なデータに基づき判断するため、住みよさ指標の目標値に対する達成度により基準を定め、5段階で評価しています。

住みよさ指標の結果に基づき判断することにより、明確な基準により各38施策を横並びで評価することが可能な一方、施策目標の達成に向け、一定の効果が見られる場合でも、結果として住みよさ指標の数値が目標値に達していない場合は、総合評価は低くなるなど、各施策の個別の状況を全て反映することが難しい一面もあります。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により緊急事態宣言が発令されるなど、各施策の取り組みや活動が大きく制限されることとなりました。コロナ禍においても、感染拡大防止の取り組みを適切に実施し施策の推進に取り組みましたが、住みよさ指標の実績値が下降したことにより、各施策の総合評価は、昨年度と比較して低くなっています。